

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	西日本アカデミー航空専門学校
設置者名	学校法人 時習学館

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	航空ビジネス学科 キャビンアテンダント・グランドスタッフコース	夜・通信	65 単位	6 単位	
	航空ビジネス学科 グランドハンドリングコース	夜・通信	53 単位	6 単位	
	航空ビジネス学科 エアラインスペシャリストコース	夜・通信	40 単位	3 単位	
	航空ビジネス学科 エアライン留学コース	夜・通信	45 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校 HP URL: http://www.nac.ac.jp/information
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	西日本アカデミー航空専門学校
設置者名	学校法人時習学館

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.nac.ac.jp/information>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業(株式会社)役員	2021/4/1 ~ 2022/3/31	企画
非常勤	会社員	2021/4/1 ~ 2022/3/31	学生管理全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	西日本アカデミー航空専門学校
設置者名	学校法人 時習学館

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教育課程編成においては、毎年教務会議、講師会議にて、学習状況や就職試験合格状況等を踏まえ意見交換を行い、各職員、講師から講義計画・内容・方法等のシラバスの作成・確認をしてもらう。講義終了時に講義計画や方法等に関する意見をもらう。それらを踏まえて、カリキュラム会議で討議し教育理念、学科の目標、業界のニーズを踏まえた上で決定する。</p> <p>カリキュラム会議で確定した科目は、各授業科目担当者が前期は3月まで、後期は4月までに授業計画書(シラバス)の作成を行う。シラバスには授業概要・到達目標・評価方法等を記載しており履修する学生が授業内容と目標を理解できるようになっている。</p> <p>前期授業計画書の公表は4月、後期授業計画書の公表は5月にホームページにて行う。</p>	
授業計画書の公表方法	本校HP URL: http://www.nac.ac.jp/information
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価に関しては、各科目100点満点とし、学科試験、出席状況、授業態度、課題提出状況及び内容等を鑑み、教科ごとに総合的に評価する。科目ごとの評価方法はシラバスに記載した評価方法に基づき行う。評価基準はS:90点以上 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59以下とし、“C”以上を合格とする。</p> <p>Dは再試験実施もしくは単位認定課題を提出することで、60点以上の場合是一律60点「C」とし、単位取得となるが、60点未満の場合、単位未取得となる。これらについては学生便覧とし学生に配布、周知している。</p> <p>履修認定については各授業科目の80%以上の出席した者が、規定で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p> <p>なお、学生の出席率が80%未満の場合は個別指導、課題による自主学習を実施することをもって、出席率を80%以上に補填したうえで、再試験の実施、成績評価を行う場合がある。これに該当した学生は、一律「C」評価となる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学習効果を客観的に判断する指標として GPA (Grade Point Average) を導入し、成績分布状況を把握し、適切に実施している。</p> <p>各学期の取得すべき科目得点は、90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、59 点以下を D として評価する。</p> <p>各成績に対する GP(Grade Point)は次のとおり。</p> <p>S=4、A=3、B=2、C=1、D=0</p> <p>また GPA 算出の計算式は次のとおり。</p> <p>GPA = (単位数×GP) の和 ÷ 履修単位数</p> <p>学期ごとに、学年ごとに GPA 分布表を集計して学生・保護者に送付する。学生にとっては自分の学習成果を把握し主体的な学習への動機づけとするために、教員にとっては学生指導の客観的指標とするために GPA を活用している。</p> <p>GPA の算出方法の公表については GPA 規定を HP で公開するほか、入学時、オリエンテーションで学生に説明を行っている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校 HP URL: http://www.nac.ac.jp/information
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、商業実務に関する専門教育を施し、地域社会に貢献し得る高度な専門的知識・技術を身につけた実践的人物を育成することを目的とする。本校を卒業する人材は、日本人としてのマナー教育を基本に航空・観光・サービス業界における接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持ち、学科コースごとの専門教育を学習し、以下に示す能力等を有す。</p> <p>① 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得</p> <p>② グローバル社会に適応できる、異なる言語・文化を持つ他者とも相互理解しあえるコミュニケーション能力</p> <p>③ 全ての業界に通じるホスピタリティマインド (おもてなしの心)</p> <p>学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校 HP URL: http://www.nac.ac.jp/information

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	西日本アカデミー航空専門学校
設置者名	学校法人 時習学館

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.nac.ac.jp/information
収支計算書又は損益計算書	http://www.nac.ac.jp/information
財産目録	http://www.nac.ac.jp/information
事業報告書	http://www.nac.ac.jp/information
監事による監査報告（書）	http://www.nac.ac.jp/information

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	航空ビジネス学科 キャビンアテンダン ト・グランドスタッ フコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1800 単位時間/単位	730 単位時間/ 単位	730 単位時間/ 単位	480 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位
			1940 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200人の内数		121人 の内数	0人	4人の内数	12人の内 数	16人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成においては、毎年教務会議、講師会議にて、学習状況や就職試験合格状況等を踏まえ意見交換を行い、各職員、講師から講義計画・内容・方法等のシラバスの作成・確認をしてもらう。講義終了時に講義計画や方法等に関する意見をももらう。それらを踏まえて、カリキュラム会議で討議し教育理念、学科の目標、業界のニーズを踏まえた上で決定する。 カリキュラム会議で確定した科目は、各授業科目担当者が前期は3月まで、後期は4月までに授業計画書（シラバス）の作成を行う。シラバスには授業概要・到達目標・評価方法等を記載しており履修する学生が授業内容と目標を理解できるようになっている。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、学科試験、出席状況、授業態度、課題提出状況及び内容等を鑑み、教科ごとに総合的に評価する。科目ごとの評価方法はシラバスに記載した評価方法に基づき行う。評価基準は S : 90 点以上 A : 80~89 点 B : 70~79 点 C : 60~69 点 D : 59 以下とし、“C” 以上を合格とする。</p> <p>D は再試験実施もしくは単位認定課題を提出することで、60 点以上の場合には一律 60 点「C」とし、単位取得となるが、60 点未満の場合、単位未取得となる。これらについては学生便覧とし学生に配布、周知している。</p> <p>履修認定については各授業科目の 80%以上の出席した者が、規定で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p> <p>なお、学生の出席率が 80%未満の場合には個別指導、課題による自主学習を実施することをもって、出席率を 80%以上に補填したうえで、再試験の実施、成績評価を行う場合がある。これに該当した学生は、一律「C」評価となる。</p> <p>学習効果を客観的に判断する指標として GPA (Grade Point Average) を導入し、成績分布状況を把握し、適切に実施している。</p> <p>各学期の取得すべき科目得点は、90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、59 点以下を D として評価する。</p> <p>各成績に対する GP(Grade Point)は次のとおり。 S=4、A=3、B=2、C=1、D=0 また GPA 算出の計算式は次のとおり。GPA = (単位数×GP) の和 ÷ 履修単位数。学期ごとに、学年ごとに GPA 分布表を集計して学生・保護者に送付する。学生にとっては自分の学習成果を把握し主体的な学習への動機づけとするために、教員にとっては学生指導の客観的指標とするために GPA を活用している。</p> <p>GPA の算出方法の公表については GPA 規定を HP で公開するほか、入学時、オリエンテーションで学生に説明を行っている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、商業実務に関する専門教育を施し、地域社会に貢献し得る高度な専門的知識・技術を身につけた実践的人物を育成することを目的とする。本校を卒業する人材は、日本人としてのマナー教育を基本に航空・観光・サービス業界における接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持ち、学科コースごとの専門教育を学習し、以下に示す能力等を有す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得 ② グローバル社会に適応できる、異なる言語・文化を持つ他者とも相互理解しあえるコミュニケーション能力 ③ 全ての業界に通じるホスピタリティマインド (おもてなしの心) <p>学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。進級については教務会議でその学年で修得すべき単位を確認し進級を決定する。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>クラス担当制により毎日のホームルーム、個別面談を行うことで、学生の生活環境を確認し適性を把握することで希望する就職先に合格できるよう指導に努めている。企業実習では学生が将来目指す業界を就職する前に体感することで将来活躍できる人材を理解できるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
58人 (100%)	0人 (0%)	49人 (84.4%)	9人 (15.5%)
（主な就職、業界等） 航空業界、ANA 福岡空港(株)、スカイマーク(株)、(株)JAL スカイ九州、JAL スカイエア ポート沖縄(株) 他			
（就職指導内容） 1 年次前期からキャリアセンター（就職指導室）で求人票、就職受験記録などを閲覧し就職に取り組む姿勢などを学んでいる。授業では面接対策、ES・履歴書作成指導を行い、一般教科では筆記試験対策を行っている。クラス担当・キャリアサポート課とで学生面談を行い就職したい企業、希望職種などのヒアリングを行い、学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 実用英語技能検定、TOEIC、硬筆書写検定、AXESS 検定、手話技能検定、サービス 介助士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116人	9人	7.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学費の不払い		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学と同時に学生個別面談を実施。性格、生活環境などを把握し学生の細かな変化などを見逃さないよう職員全体で確認している。学生が退学の申し出があった場合は、保護者確認、担当、教務課長、副校長が複数回面談を実施。学費の面では総務部から連絡を入れ、状況を把握したうえで退学を防止するよう調整を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	航空ビジネス学科 グランドハンドリン グコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1800 単位時間／単位	972 単位時間/ 単位	648 単位時間 /単位	640 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位	0 単位時間 /単位
			2260 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80 人の内数	36 人の内数	0 人	2 人の内数	14 人の内数	16 人の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>教育課程編成においては、毎年教務会議、講師会議にて、学習状況や就職試験合格状況等を踏まえ意見交換を行い、各職員、講師から講義計画・内容・方法等のシラバスの作成・確認をしてもらう。講義終了時に講義計画や方法等に関する意見をももらう。それらを踏まえて、カリキュラム会議で討議し教育理念、学科の目標、業界のニーズを踏まえた上で決定する。</p> <p>カリキュラム会議で確定した科目は、各授業科目担当者が前期は3月まで、後期は4月までに授業計画書（シラバス）の作成を行う。シラバスには授業概要・到達目標・評価方法等を記載しており履修する学生が授業内容と目標を理解できるようになっている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、学科試験、出席状況、授業態度、課題提出状況及び内容等を鑑み、教科ごとに総合的に評価する。科目ごとの評価方法はシラバスに記載した評価方法に基づき行う。評価基準は S：90 点以上 A：80～89 点 B：70～79 点 C：60～69 D：59 以下とし、“C” 以上を合格とする。</p> <p>D は再試験実施もしくは単位認定課題を提出することで、60 点以上の場合一律 60 点「C」とし、単位取得となるが、60 点未満の場合、単位未取得となる。これらについては学生便覧とし学生に配布、周知している。</p> <p>履修認定については各授業科目の 80%以上の出席した者が、規定で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p> <p>なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導、課題による自主学習を実施することをもって、出席率を 80%以上に補填したうえで、再試験の実施、成績評価を行う場合がある。これに該当した学生は、一律「C」評価となる。</p> <p>学習効果を客観的に判断する指標として GPA (Grade Point Average) を導入し、成績分布状況を把握し、適切に実施している。</p> <p>各学期の取得すべき科目得点は、90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、59 点以下を D として評価する。</p> <p>各成績に対する GP(Grade Point)は次のとおり。 S=4、A=3、B=2、C=1、D=0 また GPA 算出の計算式は次のとおり。GPA = (単位数×GP) の和 ÷ 履修単位数。学期ごとに、学年ごとに GPA 分布表を集計して学生・保護者に送付する。学生にとっては自分の学習成果を把握し主体的な学習への動機づけとするために、教員にとっては学生指導の客観的指標とするために GPA を活用している。</p> <p>GPA の算出方法の公表については GPA 規定を HP で公開するほか、入学時、オリエンテーションで学生に説明を行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、商業実務に関する専門教育を施し、地域社会に貢献し得る高度な専門的知識・技術を身につけた実践的人物を育成することを目的とする。本校を卒業する人材は、日本人としてのマナー教育を基本に航</p>

<p>空・観光・サービス業界における接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持ち、学科コースごとの専門教育を学習し、以下に示す能力等を有す。</p> <p>① 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得</p> <p>② グローバル社会に適応できる、異なる言語・文化を持つ他者とも相互理解しあえるコミュニケーション能力</p> <p>③ 全ての業界に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）</p> <p>学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。進級については教務会議でその学年で修得すべき単位を確認し進級を決定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担当制により毎日のホームルーム、個別面談を行うことで、学生の生活環境を確認し適性を把握することで希望する就職先に合格できるよう指導に努めている。企業実習では学生が将来目指す業界を就職する前に体感することで将来活躍できる人材を理解できるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	16人 (94.1%)	1人 (0.5%)
(主な就職、業界等)			
航空業界、ANA 福岡空港(株)、ANA 成田エアポートサービス(株)スカイマーク(株)、(株) JAL グランドサービス九州 他			
(就職指導内容)			
1 年次前期からキャリアセンター（就職指導室）で求人票、就職受験記録などを閲覧し就職に取り組む姿勢などを学んでいる。授業では面接対策、ES・履歴書作成指導を行い、一般教科では筆記試験対策を行っている。クラス担当・キャリアサポート課とで学生面談を行い就職したい企業、希望職種などのヒアリングを行い、学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
実用英語技能検定、TOEIC、硬筆書写検定、大型特殊車両免許、けん引免許、フォークリフト免許			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41人	1人	2.4%

(中途退学の主な理由) 進路変更
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学と同時に学生個別面談を実施。性格、生活環境などを把握し学生の細かな変化などを見逃さないよう職員全体で確認している。学生が退学の申し出があった場合は、保護者確認、担当、教務課長、副校長が複数回面談を実施。学費の面では総務部から連絡を入れ、状況を把握したうえで退学を防止するよう調整を図っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	航空ビジネス学科 エアラインスペシャリストコース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	900 単位時間／単位	360 単位時間/ /単位	360 単位時間/ /単位	480 単位時間/ /単位	0 単位時間/ /単位	0 単位時間/ /単位
			1200 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人の内数	4人の内数	0人	4人の内数	17人の内数	21人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 教育課程編成においては、毎年教務会議、講師会議にて、学習状況や就職試験合格状況等を踏まえ意見交換を行い、各職員、講師から講義計画・内容・方法等のシラバスの作成・確認をしてもらう。講義終了時に講義計画や方法等に関する意見をももらう。それらを踏まえて、カリキュラム会議で討議し教育理念、学科の目標、業界のニーズを踏まえた上で決定する。 カリキュラム会議で確定した科目は、各授業科目担当者が前期は3月まで、後期は4月までに授業計画書(シラバス)の作成を行う。シラバスには授業概要・到達目標・評価方法を記載しており履修する学生が授業内容と目標を理解できるようになっている。
成績評価の基準・方法
(概要) 成績評価に関しては、各科目100点満点とし、学科試験、出席状況、授業態度、課題提出状況及び内容等を鑑み、教科ごとに総合的に評価する。科目ごとの評価方法はシラバスに記載した評価方法に基づき行う。評価基準はS:90点以上 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59以下とし、“C”以上を合格とする。 Dは再試験実施もしくは単位認定課題を提出することで、60点以上の場合は一律60点「C」とし、単位取得となるが、60点未満の場合、単位未取得となる。これらについては学生便覧とし学生に配布、周知している。 履修認定については各授業科目の80%以上の出席した者が、規定で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導、課題による自主学習を実施することをもって、出席率を 80%以上に補填したうえで、再試験の実施、成績評価を行う場合がある。これに該当した学生は、一律「C」評価となる。

学習効果を客観的に判断する指標として GPA (Grade Point Average) を導入し、成績分布状況を把握し、適切に実施している。

各学期の取得すべき科目得点は、90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、59 点以下を D として評価する。

各成績に対する GP (Grade Point) は次のとおり。 S=4、A=3、B=2、C=1、D=0 また GPA 算出の計算式は次のとおり。 $GPA = (\text{単位数} \times GP) \text{の和} \div \text{履修単位数}$ 。学期ごとに、学年ごとに GPA 分布表を集計して学生・保護者に送付する。学生にとっては自分の学習成果を把握し主体的な学習への動機づけとするために、教員にとっては学生指導の客観的指標とするために GPA を活用している。

GPA の算出方法の公表については GPA 規定を HP で公開するほか、入学時、オリエンテーションで学生に説明を行っている。

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、商業実務に関する専門教育を施し、地域社会に貢献し得る高度な専門的知識・技術を身につけた実践的人物を育成することを目的とする。本校を卒業する人材は、日本人としてのマナー教育を基本に航空・観光・サービス業界における接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持ち、学科コースごとの専門教育を学習し、以下に示す能力等を有す。

- ① 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
- ② グローバル社会に適応できる、異なる言語・文化を持つ他者とも相互理解しあえるコミュニケーション能力
- ③ 全ての業界に通じるホスピタリティマインド (おもてなしの心)

学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

学修支援等

(概要)

クラス担当制により毎日のホームルーム、個別面談を行うことで、学生の生活環境を確認し適性を把握することで希望する就職先に合格できるよう指導に努めている。企業実習では学生が将来目指す業界を就職する前に体感することで将来活躍できる人材を理解できるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 西日本旅客鉄道			

<p>(就職指導内容)</p> <p>1 年次前期からキャリアセンター（就職指導室）で求人票、就職受験記録などを閲覧し就職に取り組む姿勢などを学んでいる。授業では面接対策、ES・履歴書作成指導を行い、一般教科では筆記試験対策を行っている。クラス担当・キャリアサポート課とで学生面談を行い就職したい企業、希望職種などのヒアリングを行い、学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。</p>
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>実用英語技能検定、TOEIC、硬筆書写検定、AXESS 検定、手話技能検定</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<p>入学と同時に学生個別面談を実施。性格、生活環境などを把握し学生の細かな変化などを見逃さないよう職員全体で確認している。学生が退学の申し出があった場合は、保護者確認、担当、教務課長、副校長が複数回面談を実施。学費の面では総務部から連絡を入れ、状況を把握したうえで退学を防止するよう調整を図っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
商業実務		商業実務専門課程	航空ビジネス学科 エアライン留学コース	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼間	1800 単位時間/単位	1050 単位時間/ 単位	1050 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位	0 単位時間/ 単位
			2100 単位時間/単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
200 人の内数		0 人	0 人	4 人の内数	12 人の内数	16 人の内数

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

<p>(概要)</p> <p>教育課程編成においては、毎年教務会議、講師会議にて、学習状況や就職試験合格状況等を踏まえ意見交換を行い、各職員、講師から講義計画・内容・方法等のシラバスの作成・確認をしてもらう。講義終了時に講義計画や方法等に関する意見をももらう。それらを踏まえて、カリキュラム会議で討議し教育理念、学科の目標、業界のニーズを踏まえた上で決定する。</p> <p>カリキュラム会議で確定した科目は、各授業科目担当者が前期は3月まで、後期は4月までに授業計画書（シラバス）の作成を行う。シラバスには授業概要・到達目標・評価方法等を記載しており履修する学生が授業内容と目標を理解できるようになっている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、学科試験、出席状況、授業態度、課題提出状況及び内容等を鑑み、教科ごとに総合的に評価する。科目ごとの評価方法はシラバスに記載した評価方法に基づき行う。評価基準は S : 90 点以上 A : 80～89 点 B : 70～79 点 C : 60～69 D : 59 以下とし、“C” 以上を合格とする。</p> <p>D は再試験実施もしくは単位認定課題を提出することで、60 点以上の場合一律 60 点「C」とし、単位取得となるが、60 点未満の場合、単位未取得となる。これらについては学生便覧とし学生に配布、周知している。</p> <p>履修認定については各授業科目の 80%以上の出席した者が、規定で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p> <p>なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導、課題による自主学習を実施することをもって、出席率を 80%以上に補填したうえで、再試験の実施、成績評価を行う場合がある。これに該当した学生は、一律「C」評価となる。</p> <p>学習効果を客観的に判断する指標として GPA (Grade Point Average) を導入し、成績分布状況を把握し、適切に実施している。</p> <p>各学期の取得すべき科目得点は、90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C、59 点以下を D として評価する。</p> <p>各成績に対する GP (Grade Point) は次のとおり。S=4、A=3、B=2、C=1、D=0 また GPA 算出の計算式は次のとおり。GPA = (単位数×GP) の和 ÷ 履修単位数。学期ごとに、学年ごとに GPA 分布表を集計して学生・保護者に送付する。学生にとっては自分の学習成果を把握し主体的な学習への動機づけとするために、教員にとっては学生指導の客観的指標とするために GPA を活用している。</p> <p>GPA の算出方法の公表については GPA 規定を HP で公開するほか、入学時、オリエンテーションで学生に説明を行っている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、商業実務に関する専門教育を施し、地域社会に貢献し得る高度な専門的知識・技術を身につけた実践的人物を育成することを目的とする。本校を卒業する人材は、日本人としてのマナー教育を基本に航空・観光・サービス業界における接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持ち、学科コースごとの専門教育を学習し、以下に示す能力等を有す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得 ② グローバル社会に適応できる、異なる言語・文化を持つ他者とも相互理解しあえるコミュニケーション能力 ③ 全ての業界に通じるホスピタリティマインド (おもてなしの心) <p>学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定</p>

<p>する。進級については教務会議でその学年で修得すべき単位を確認し進級を決定する。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>クラス担当制により毎日のホームルーム、個別面談を行うことで、学生の生活環境を確認し適性を把握することで希望する就職先に合格できるよう指導に努めている。企業実習では学生が将来目指す業界を就職する前に体感することで将来活躍できる人材を理解できるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

<p>卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>航空業界、スカイマーク(株)、(株)JAL スカイ</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>1 年次前期からキャリアセンター（就職指導室）で求人票、就職受験記録などを閲覧し就職に取り組む姿勢などを学んでいる。授業では面接対策、ES・履歴書作成指導を行い、一般教科では筆記試験対策を行っている。クラス担当・キャリアサポート課とで学生面談を行い就職したい企業、希望職種などのヒアリングを行い、学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>実用英語技能検定、TOEIC、硬筆書写検定、AXESS 検定、手話技能検定、サービス介助士</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

<p>中途退学の現状</p>		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
航空ビジネス学科 (キャビンアテンダント・グラント・スタッフコース エアラインスペシャリストコース)	90,000 円	640,000 円	649,000 円	
航空ビジネス学科 (グラント・ハンドリングコース)	90,000 円	640,000 円	610,000 円	
航空ビジネス学科 (エアライン留学コース)	90,000 円	640,000 円	610,000 円	他留学費用
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.nac.ac.jp/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者評価委員会 (定数4名) 1. 西日本アカデミー航空専門学校 自己評価報告書に基づき、教職員の意見聴取及び学校施設等の視察を行う。 2. 学校が設定した評価項目 (学校運営・教育活動・学習成果・財務等) の達成及び取組み状況を点検する。 3. 自己評価をもとに、その内容において分析・考察を行う。 4. 今後の課題と改善策を示し、教育活動・学校運営の質向上に役立てる 5. 委員は卒業生、企業関係者等から選出される。
実施方法 (Ⅰ) 学校に学校関係者評価委員会を設置し、教職員が連携して評価活動を行う。(Ⅱ) 評価は、学校関係者評価委員会が作成した評価表に基づいて行う。(Ⅲ) 評価結果は、学校関係者評価委員会において評価項目の達成度についての点検を行う。委員会での点検をもとに各事項についての分析・考察を行い、今後の課題と改善策を示した報告書を纏め、HP等で公開し、教育活動・学校運営の質向上をはかる。
評価項目 1. 教育理念・教育目標 2. 学校運営 3. 教育活動 4. 学習成果 5. 学生支援 6. 教育環境 7. 学生募集

<p>8. 財務</p> <p>9. 法令等の遵守</p> <p>10. 社会貢献</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公認会計士	2020/4/1～2022/3/31	株式会社
総務部長	2020/4/1～2022/3/31	株式会社
卒業生	2020/4/1～2022/3/31	航空会社
卒業生	2020/4/1～2022/3/31	航空会社
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
URL: http://www.nac.ac.jp/information		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>URL: http://www.nac.ac.jp/information</p>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。